

第7回 御幸公園梅香（うめかおる）事業推進会議

日 時 平成28年11月16日（水）

15:30～17:00

場 所 幸区役所4階区長室

1 開会

2 議題

- (1) 平成28年度御幸公園梅香事業梅林視察について
- (2) 平成29年度うめかおる写真展（案）について
- (3) うめかおる寄附・募金について（案）
- (4) 御幸公園梅香事業推進計画（案）について
- (5) 今後のスケジュール

3 その他

「武蔵国橘樹郡河崎小向梅林」について

試食会 ～幸区で販売している梅のお菓子を試食～

4 閉会

- 資料1 平成28年度御幸公園梅香事業 梅林視察について
資料2 平成29年度うめかおる写真展（案）について
資料3 うめかおる寄附・募金について（案）
資料4 御幸公園梅香事業推進計画（案）

- 参考資料1 御幸公園梅香事業実施要綱
参考資料2 御幸公園梅香事業推進会議設置要綱
参考資料3 「御幸公園梅香事業」推進会議 名簿
参考資料4 平成28年度御幸公園梅香事業スケジュール
参考資料5 計画期間の主な取組（案）H27～H36
参考資料6 御幸公園梅香事業第6回推進会議摘録

平成28年11月16日
御幸公園梅香事業推進会議

平成28年度御幸公園梅^{うめかおる}香事業 梅林視察について

1 目 的

イベントを実施している公園・施設を視察することによって、今後の梅まつりの企画及び実施の参考にする。

2 日 時

平成29年2月中旬～3月上旬 9時～17時予定

3 参加人数

20人程度（内訳 委員12名、事務局8名程度）

4 視察場所

(1) 羽根木公園（世田谷区）

【ポイント】 実行委員会（地域主体）による開催

(2) 神代植物公園（調布市）

【ポイント】 ボランティア等によるガイドツアー

(3) 府中市郷土の森博物館（府中市）

【ポイント】 学芸員によるイベントの企画、実施

5 行 程

別紙のとおり（マイクロバスによる移動）

6 費 用

1人500円程度（保険代）

※昼食（1,000円程度）を希望される方は事前に事務局までお申し込みください。

《参考》

1 平成29年度梅林視察（案）

(1) 目 的 区民の御幸公園梅香事業への関心を高める

(2) 日 時 平成30年2月上旬～3月上旬

(3) 参加人数 50人程度（内訳 市民公募：35人、委員+事務局：15人程度）

(4) 視察場所 未定

2 平成27年度視察

(1) 目 的 御幸公園と同規模の梅林を視察しイメージを膨らませる

(2) 日 時 平成28年2月22日（月）9時～17時

(3) 参加人数 18人（委員：9人、事務局9人）

(4) 視察場所 三溪園、保土ヶ谷公園、大倉山公園

平成28年度梅林視察 梅まつりカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
♡羽根木公園(2/11~3/5) ○神代植物公園(2月上旬~3月上旬) ☆府中市郷土の森博物館(2/4~3/11)			2/1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
○ ☆	☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆	♡ ○ ☆
12	13	14	15	16	17	18
♡ ○ ☆	♡ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆
19	20	21	22	23	24	25
♡ ○ ☆	♡ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆
26	27	28	3/1	2	3	4
♡ ○ ☆	♡ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆	♡ ○ ☆
5	6	7	8	9	10	11
♡ ○ ☆	☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆	○ ☆

- ※1 羽根木公園「世田谷梅まつり」(2/11~3/5)はイベントは土日がメインとなるが、平日でも実行委員会主催の売店(梅に関する商品の販売)や園芸市などがある。
- ※2 神代植物公園の梅まつりの日程は検討中、詳細は1月頃にわかる。(10/18確認) イベントは土日がメインだが2016年は歴史的資料の展示が行われていた。ボランティアによるガイドは事前調整が必要。(毎週月曜日は休園日)
- ※3 府中市郷土の森博物館の梅まつり(2/4~3/12)は平日にイベントは行われていない。園内を案内してもらうことは可能。

平成28年度梅林視察 行程表

9:00	幸区役所	区役所1階ロビーハナミズキ集合 (出席確認・会費回収)
9:15		出発
↓		バス移動(約45分間)
10:00	羽根木公園	到着
↓		視察 約1時間(園内徒歩移動) ※職員による説明(予定)
11:00		出発
↓		バス移動(約30分間)
11:30	昼食 深大寺そば 「八起」	到着
↓		昼食 約1時間
12:30		出発
↓		バス移動(約10分間)+徒歩移動(約5分間)
12:45	神代植物公園	到着
↓		視察 約45分間 ※ボランティア等による案内(予定) (園内徒歩移動)
13:30		出発
↓		徒歩移動(約5分間)+バス移動(約30分間)
14:05	府中市郷土の森 博物館	到着
↓		視察 約1時間 ※学芸員による案内(予定) (園内徒歩移動)
15:05		出発
↓		バス移動(約1時間15分間)
16:20	幸区役所	到着 区役所1階ロビーハナミズキ側ロータリー 解散

※記載の時間については、予定のため前後する可能性があります。

平成28年度梅林視察 梅林について

1 羽根木公園 (世田谷区)

「せたがや梅まつり」が開催され、週末と祝日には模擬店が出て賑わう。

【梅】 約650本

【公園面積】 79,650㎡

【見頃】 2月中旬～3月上旬

紅梅、白梅、おもいのままなど約60種以上



2 神代植物公園 (調布市)

古来からの園芸品種を収集、公開している。年数がたつて樹形に風格がそなわっているものが多い。

【梅】 167本

【公園面積】 486,536㎡

【見頃】 2月中旬～3月中旬

月の桂、道知辺、白牡丹、白難波、月宮殿、紅千鳥、輪違い、緑萼、森の関など約71種類



3 府中市郷土の森博物館 (府中市)

足もとの福寿草、移築復元された古い建物と梅の花が風情を醸し出す。

【梅】 約1100本

【公園面積】 約13ha

【見頃】 2月中旬～3月上旬

八重寒紅(紅)、新茶青(白)、牡丹枝垂(ピンク)、白加賀、豊後、紅枝垂など60種類



平成28年11月16日
御幸公園梅香事業推進会議

平成29年度うめかおる写真展（案）について

1 テーマ

「うめかおる風景」

2 目的

- (1) 御幸公園梅香事業の周知
- (2) 将来の御幸公園の梅林のイメージをふくらませてもらう

3 応募規定

- (1) 梅に関する写真（梅の花、果実、梅林、梅まつりの風景など）
※撮影場所は問わない
- (2) 直近3年程度で撮影されたもの
- (3) 1人3点まで応募可能
- (4) 応募先へ郵送もしくは持参（電子データのみは不可）

4 展示場所及び期間

- (1) 幸区役所ロビーハナミズキ 平成29年4月17日(月)～28日(金)
- (2) 日吉出張所タウンホールやまぶき 平成29年5月8日(月)～26日(金)
- (3) 幸区ホームページ 平成29年4月17日(月)～

※応募多数の場合は推進会議内で選定

5 スケジュール（詳細別紙）

別紙参照

6 その他

賞は設けず、応募者全員に参加賞を配布する。

(案)

平成29年度うめかおる写真展 募集要項

テーマ 「うめかおる風景」

募集作品 梅に関する写真（梅の花、果実、梅林、梅まつりの風景など）※撮影場所は問わない。

募集期間 平成29年2月1日（水）～平成29年3月17日（金）

応募規定 ①写真：直近3年程度に撮影された、カラーまたは白黒の写真（電子データのみは不可）
②サイズ：2L判（127mm×178mm）以上で額装は不要
③応募点数：1人3点まで（未発表のもの）

応募方法 応募用紙に必要事項を記入の上、応募先へ郵送または持参してください。
※データを提供いただける方は、SDカードまたはCD-ROMで持参してください（返却可）。

展 示 ①幸区役所1階ロビーハナミズキ 平成29年4月17日（月）～平成29年4月28日（金）
②日吉出張所1階タウンホールやまぶき 平成29年5月8日（月）～平成29年5月26日（金）
③幸区ホームページ 平成29年4月17日（月）～

注意事項 ①人物が写るなど肖像権及び登録商標にかかわる場合は、人物及び商標の管理者に了承を得てから応募してください。それによるトラブルについて主催者は一切の責任を負いません。
②応募作品の著作権は主催者に帰属するものとします。
③応募作品は応募者による未発表のオリジナル作品に限ります。
④写真は原則展示しますが、写真の内容や応募作品が多い場合には主催者で協議し、展示できない場合があります。
⑤応募いただいた写真は返却しません。
⑥ホームページに公開する場合、構成や編集の都合上、写真のサイズや色調を変更する場合があります。

問い合わせ・応募先

幸区役所道路公園センター管理課
〒212-0053 川崎市幸区下平間357-3
TEL:044-544-5500 FAX:044-556-1650



主 催 御幸公園梅香事業推進会議・幸区役所

※御提供いただいた個人情報は、当写真展以外には使用いたしません。また、必要がなくなり次第すぐに廃棄、消去いたします。

(切り取り線)

「平成29年度うめかおる写真展」応募票（各応募作品の裏面に貼付してください）※印は必須事項

※ふりがな		アンケート
※氏 名		1 写真展についてどこで知りましたか。 ①区役所 ②市政だより ③ホームページ ④その他（ ）
※住 所	〒 —	2 今後、梅香事業で参加したい取組はありますか。 ①写真展・絵画展 ②歴史講座 ③梅の植樹 ④梅林の手入れ ⑤加工品づくり ⑥梅まつり ⑦梅林ライトアップ ⑧その他（ ） ⑨わからない
※電話番号	()	3 御意見・御要望があればお願いします。
E-mail		
撮影場所		
撮影時期	年 月 ごろ	
題 名		



御幸公園梅香（うめかおる）事業とは



1 事業の目的

幸区の魅力ある地域資源の一つである御幸公園は、かつて梅の名所として、明治天皇が観梅に行幸されました。こうした御幸公園の歴史、文化等を活かし、区民の地域への愛着と誇りを育てていくため、梅林を区民や地域の様々な団体の方々との連携・協働により復活し、賑わいと彩り豊かな集いの場を創造します。

2 事業の内容

(1) 御幸公園梅香事業推進計画に基づく施策の推進

- ア 梅林及び散策路の整備
- イ 御幸地区の歴史・文化に関する講演会
- ウ 地域、学校等との連携・協働事業
(梅まつり、写真展、絵画コンクール等)



(2) 御幸公園梅香事業推進会議の開催

3 主なスケジュール

- ・平成 28 年度 「市民 100 万本植樹運動」御幸公園植樹祭
御幸公園梅香事業推進計画策定
- ・平成 29 年度 うめかおる寄付・募金 受付開始
- ・平成 34 年度 区制 50 周年記念事業
- ・平成 36 年度 市制 100 周年記念事業



4 実施主体

御幸公園梅香事業推進会議、幸区役所

(案)

御幸公園案内図



所在地

川崎市幸区東古市場1

交通機関

JR川崎駅西口北バス停より、川崎市営バス「川73系統」、又は東急バス「反01系統」で「御幸公園前」下車

駐車場

台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用下さい。また、駐車場を閉鎖している日は駐車場を利用できないことがあります。

お申込み・お問い合わせ

寄附申込先

幸区役所総務課
電話: 044-556-6645
ファックス: 044-555-3130
E-mail: 63soumu@city.kawasaki.jp

御幸公園梅香事業について
現物(梅の苗木)の寄附のご相談

幸区役所道路公園センター
電話: 044-544-5500(代)
ファックス: 044-556-1650
E-mail: 63dousei@city.kawasaki.jp

※寄附金控除については、お住まいの市区町村の住民税を担当する部署にお問い合わせください。

※寄附等の募集案内、申込書は、幸区役所ホームページ(<http://www.city.kawasaki.jp/saiwai>)からもダウンロードできます。



寄附は、川崎市を応援いただく皆さまの意思に基づく自発的なものであり、寄附事業をかたったの寄附の強要や詐欺行為には十分ご注意願います。



川崎市幸区の北側に位置する小向一帯は、明治時代に梅の名所として有名になり、観梅のため明治天皇が行幸された歴史があります。川崎市では、幸区の地域資源を活かしたまちづくりとして、市制100周年(平成36年度)に向け、御幸公園の梅林を復活させる取組「御幸公園梅香事業」を実施しています。事業の推進にご協力いただける皆様のご支援をお願いいたします。

1 寄附等の使途

御幸公園梅香事業における梅の植樹等に使います。

2 募集期間

平成29年4月～平成35年3月

3 寄附の申込み

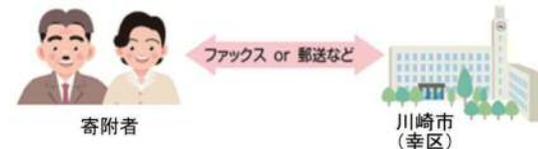
寄附申込書は、ファックス・郵送・持参のいずれかの方法で幸区役所総務課にご提出ください。

①金銭の寄附の場合(個人の方)

⇒「川崎市ふるさと応援寄附金申込書」によりお申込みください。
※寄附金控除の対象となります。(「7 寄附金控除」参照)

②金銭の寄附(団体等の方)または現物(梅の苗木)の寄附の場合

⇒「御幸公園うめかおる寄附申込書」によりお申込みください。
※現物(梅の苗木)は、原則として造園業者等から購入したものを提供ください。また、品種や時期等に条件がありますので、事前に幸区役所道路公園センターにお問い合わせください。



4 寄附の方法

後日、納付書をお送りしますので、川崎市が指定する金融機関でお振込みください。
指定金融機関がお近くにない場合は、最寄りの金融機関からお振込みできますが、
振込手数料をご負担いただくこととなります。お振込みを確認後、寄附受領書をお送りします。



5 記念プレートの設置

50,000円(現物の寄附も含みます。)以上の寄附をいただいた場合、ご希望によりメッセージ(結婚、子どもの誕生、退職など)と、お名前を記載した記念プレートを御幸公園内の銘板に設置します。

①記念プレートのイメージ

銘板、記念プレートイメージ(イラスト)



②記念プレート設置申込書の送付

50,000円以上の寄附をいただいた方には、「記念プレート設置申込書」をお送りします。
必要事項を記入の上、お申し込みください。

③メッセージの例

結婚記念、〇〇誕生記念、退職記念、(株)〇〇創立記念
10文字以内でメッセージをお書きください。

④寄附者名

10文字以内で、個人または団体・企業名をお書きください。

※メッセージや寄附者名に以下の表示はできませんのでご了承ください。

・風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条第1項に規定する「風俗営業」その他これらに類するもの

・広告や宣伝、その他公園管理上ふさわしくないと認められるもの

※上記の事実が判明した場合には、記念プレート設置のご希望に添いかねますのでご了承ください。なお、その際にも、いただいた寄附金品はお返しできません。

6 感謝状の贈呈

100,000円(現物の寄附も含みます)以上の寄附をいただいた方には、「5 記念プレートの設置」に加え、感謝状を贈呈いたします。

7 寄附金控除

川崎市など地方公共団体に対する寄附を行った場合に、その支出した寄附金のうち、2,000円を超える額について、個人住民税及び所得税の寄附金控除の適用を受けることができます。寄附金のお振込み後にお送りする受領書は確定申告の際に必要なとなりますので、大切に保管してください。

※個人住民税の寄附金控除の上限は、個人住民税所得割額のおおむね2割となります。

※寄附金控除を受けるには、領収書等の寄附金の受領を証明する書類を添えて、最寄りの税務署で所得税の確定申告をしていただく必要があります。

※ふるさと納税に係る税控除を簡素な手続きで行える、「ふるさと納税ワンストップ特例制度」が創設されました。確定申告をする予定のない給与所得者等の方で、1月1日から12月31日の間にワンストップ特例の申請が5団体以下と見込まれる方については、寄附受領書に同封する「寄附金税額控除に係る申告特例申請書」に必要事項を記載の上、寄附手続きを行った窓口(幸区役所総務課)に申請することにより、確定申告をしなくても税控除の適用を受けることができます。詳しくはお住まいの市区町村の住民税を担当する部署にお問い合わせください。

8 寄附者の公表

寄附していただいた方の中で、寄附者名等の公表を希望される方は、寄附申込書の「情報の公開」の「同意する」欄にチェックをしてください。

9 うめかおる募金

気軽に少額でも趣旨に賛同いただけるよう、幸区役所総務課及び幸区役所道路公園センターに募金箱を設置していますので、併せてご協力をお願いいたします。(記念プレート設置、感謝状贈呈、寄附金控除、寄附者の公表の対象にはなりませんのでご了承ください。)

(様式 1)

川崎市ふるさと応援寄附金申込書

平成 年 月 日

(あて先) 川崎市長

私は、川崎市に対して下記のとおり寄附します。

〒 -
ご住所

フリガナ

お名前

1 ご希望の入金方法

いずれかの方法にチェックをお願いします。

お振込み 現金持参

ご連絡先 電話

FAX

メールアドレス

2 情報の公開

寄附について、お名前や金額などを公表(市のホームページや広報誌等への掲載等)させていただきます。
公表に同意いただける場合には「同意する」に、同意いただけない場合には「同意しない」にチェックをお願いします。

同意する 同意しない

3 寄附金額 _____ 円

4 寄附の使いみち

次の選択メニューの中から1つ選び、チェックをお願いします。

【選択メニュー】

安全・安心	<input type="checkbox"/> 危機管理・防災対策の推進	
福 祉 こども支援 教 育	<input type="checkbox"/> 長寿社会福祉の振興	<input type="checkbox"/> 障害者福祉の向上
	<input type="checkbox"/> 総合的なこども支援の推進	<input type="checkbox"/> 災害遺児等の援護
	<input type="checkbox"/> 教育活動の充実	<input type="checkbox"/> 学校施設の整備・充実
芸 術 文 化 スポーツ	<input type="checkbox"/> 「音楽のまち・かわさき」の推進	<input type="checkbox"/> 「映像のまち・かわさき」の推進
	<input type="checkbox"/> ホームタウンスポーツの推進	<input type="checkbox"/> 市民による文化活動の推進
	<input type="checkbox"/> 藤子・F・不二雄ミュージアムの充実	<input type="checkbox"/> 等々力陸上競技場の整備
	<input type="checkbox"/> 国際交流活動の推進	
環境・公園・みどり	<input type="checkbox"/> 地球温暖化対策の推進	<input type="checkbox"/> 夢見ヶ崎動物公園の飼育環境の充実
	<input type="checkbox"/> 多摩川における豊かな河川空間の創出	<input type="checkbox"/> 公園緑地の整備・緑の創出
	<input type="checkbox"/> 動物愛護センターの動物への支援	
都市拠点の整備	<input type="checkbox"/> 都市の拠点機能の整備	
市民自治のまちづくり	<input type="checkbox"/> 区における地域のまちづくりの推進	ご希望の区役所 _____ 区役所
市長おまかせメニュー	<input type="checkbox"/> 市政全般に対する寄附	

(第1号様式)

御幸公園うめかおる寄附申込書

年 月 日

(あて先) 幸 区 長

私は、御幸公園梅香事業に対して下記のとおり寄附します。

ご住所 〒 _____

フリガナ
団体名 _____

フリガナ
お名前 _____

フリガナ
(代表者) _____

ご連絡先

電話 _____

F A X _____

メールアドレス _____

1 寄附金品等の種類

- 現金 (注1)
 現物 (梅の苗木) (注2)

2 金額または数量

- 現金 _____ 円
 現物 (梅の苗木) _____ 本 (_____ 円相当)

3 情報の公開

寄附について、お名前や金額などを公表 (市のホームページ等) させていただく場合があります。
公表に同意いただける場合には「同意する」に、同意いただけない場合には「同意しない」にチェックをお願いします。

- 同意する 同意しない

(注1) 個人の方の現金による寄附の場合は、「川崎市ふるさと応援寄附金申込書」によりお申込みください

(注2) 現物 (梅の苗木) による寄附の場合は、品種、植樹時期等について御相談させていただきます。

(_____ 担当)
電話 _____

うめかおる
御幸公園梅香事業推進計画
(案)



平成 29 年 1 月
川崎市幸区役所

はじめに

区長コメント

上野区長のショット

目 次

第1章 計画策定にあたって

- 1 計画策定の背景と目的
- 2 計画期間
- 3 川崎市総合計画における事業の位置付け

第2章 御幸公園の梅林（小向梅林）について

- 1 小向梅林の位置について
- 2 小向梅林の歴史について

第3章 御幸公園の現状

- 1 御幸公園の概要
- 2 梅の植樹の状況

第4章 計画の基本的な方向性

- 1 計画の基本的視点
- 2 計画の基本目標
 - (1) 魅力の発信
 - (2) 歴史・文化の継承
 - (3) 梅林の復活
 - (4) 梅林の活用
 - (5) 梅林の保全
 - (6) 未来へつなげる取組
 - (7) 公園の利用促進

第5章 実施計画

第6章 計画の実現に向けて

- 1 推進体制
- 2 推進計画の進行管理と評価

資料編

- 1 御幸公園梅香事業実施要綱
- 2 御幸公園梅香事業推進会議設置要綱
- 3 御幸公園梅香事業推進会議名簿
- 4 御幸公園梅香事業推進会議の開催状況
- 5 小向梅林（明治天皇行幸に際しての下調べ）
- 6 「小向梅林の跡 ー南郊の梅ー」大町桂月（抜粋）
- 7 「梅の南郊 ー小向ー」田山花袋（抜粋）

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

明治天皇が行幸するほど観梅の名所であった小向（御幸）梅林は、都市化の進展から往年の面影を見ることができず、御幸公園に行幸の碑とともに小さな梅林が当時の名残を留めています。

1889年（明治22年）に町村制が施行された際、小向村など8村が合併した新村の名称は、この行幸にちなんで御幸村となりました。御幸村は、1924年（大正13年）に川崎町、大師町と合併し、人口約4万8千人の川崎市が誕生しました。

また、その後にあった区制施行で、御幸村の大半が幸区に移行したことから、御幸の幸をとって区名を「幸区」となりました。

天皇の行幸から「御幸」の名称ができ、「幸区」の名称につながった梅林であり、かつて産業として地域を潤し、地域に愛された梅林です。

幸区の地域の資源を活かしたまちづくりとして、幸区の魅力であり資源である御幸公園の梅林を市民の皆様と復活するとともに、市民に愛される公園としての整備を進め、区民の集いの場を創造し地域コミュニティの活性化をめざします。



2 計画期間

2024年（平成36年）は、川崎市の市制100周年にあたり大きな節目となる本市の総合計画に合わせ、計画期間を2025年度（平成37年度）とします。また、総合計画の見直しに合わせて必要に応じて本計画についても見直しを行います。

	2015年度 平成27年	2016年度 平成28年	2017年度 平成29年	2018年度 平成30年	2019年度 平成31年	2020年度 平成32年	2021年度 平成33年	2022年度 平成34年	2023年度 平成35年	2024年度 平成36年	2025年度 平成37年
計画期間	御幸公園 梅香事業 推進会議 の発足	計画の策定						区政50周年		市制100周年	



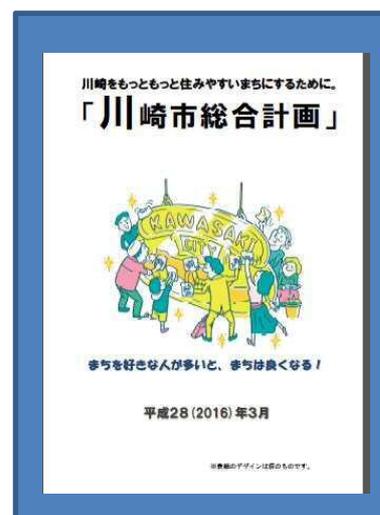
川崎市総合計画の計画期間

〔「基本構想」「基本計画」「実施計画」の計画期間〕								
	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	37年度 (2025)
基本構想			川崎市基本構想 30年程度を展望					
基本計画			川崎市基本計画 平成28年度から概ね10年					
実施計画	※実施結果を盛り込む		第1期 実施計画 H26～H29		第2期 実施計画(想定) H30～H33		第3期 実施計画(想定) H34～H37	

3 川崎市総合計画における事業の位置付け

「川崎市総合計画」は、2016年（平成28年）3月に「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」（基本構想）の実現をめざし策定したもので、社会経済状況の変化等に柔軟に対応していくために、今後概ね10年間を対象として、5つの基本政策と23の政策からなる「基本計画」と具体的な取組を定めた「実施計画」の3層で構成されています。

御幸公園梅香事業は、その中の幸区の実施計画にある「地域の課題解決に向けた主要な取組」の中に「地域資源を活かしたまちづくりの推進」として、「御幸公園の魅力向上事業」が位置付けられています。



地域の課題解決に向けた主要な取組

● 地域資源を活かしたまちづくりの推進

- ✓ かつて明治天皇が観梅のために行幸したという、梅の名所としての地域の歴史を踏まえ、御幸公園周辺において、区民との協働による取組を進めます。
- ✓ 区内の豊かな緑や、文化・芸術・歴史などの地域資源を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りを育んでいくため、さまざまな主体との協働・連携を通して、賑わいと彩り豊かな、魅力あるまちづくりを進めます。

事業名	現状	事業内容・目標		
	平成 26～27 (2014～15)年度	平成 28(2016) 年度	平成 29(2017) 年度	平成 30(2018) 年度以降
御幸公園の魅力向上事業 公園内の散策路等の整備や、区民との協働による「御幸公園梅香(うめかおる)事業」を推進し、市制100周年に向けて、公園周辺の魅力向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 梅林の整備方針の検討 ● 御幸公園梅香事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「梅香事業推進計画」案の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 御幸公園梅香事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 梅林の復活や植樹の取組の推進 ・ 地域住民や学校等と連携した取組 ・ 「梅香事業推進計画」の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 御幸公園梅香事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 梅林の復活や植樹の取組の推進 ・ 地域住民や学校等と連携した取組 ・ 歴史・文化に関する講座の実施 	事業推進

川崎市総合計画 実施計画【幸区】より

うめかおるコラム 「梅林と文学1」(田山花袋の「梅の南郊 一小向一」)

当時の梅林の魅力について、田山花袋の「梅の南郊 一小向一」の一節には、「～六郷川(多摩川)に添った形がちょっと他の梅林に見ることの出来ない風致があった。梅は今では見るかげもないが、その上の土手から見た六郷川の風景は、丁度中川に似て、それで中川より変化に富んでいる。川が大きく折れ曲がっているさまも趣致がある。白帆と梅林との調和も面白い。～ 」とあり、当時の梅林の面影を知ることができます。



第2章 御幸公園の梅林（小向梅林）について

1 小向梅林の位置について

江戸時代から1889年（明治22年）の市制・町村制施行までの橘樹郡小向村は、現在の小向、小向町、小向東芝町、小向仲野町、小向西町、東古市場の一部に亘る範囲になりますが、梅林は主に現在の小向が中心でありました。

現在の小向は、幸区の中央から東よりの北端に位置し、大きく湾曲する多摩川と北、東に接しており、国道1号線の多摩川大橋下流にあり、全域が多摩川の河川敷にあり、川崎ゴルフ練習場や少年野球場、川崎競馬場小向厩舎在厩馬練習場、アール・エフ・ラジオ日本川崎幸放送局の送信用アンテナなどが所在しています。



航空写真（平成27年）



川崎市統合地図情報システム - 航空写真より

フランス式彩色図（明治14年）



川崎地名研究所所蔵：(財) 日本地図センター発行
迅速測図復刻版を一部着色



2 小向梅林の歴史について

(1) 暴れ川多摩川

多摩川は急流河川で、洪水のたびにその流れを変え、現在に近い流路になったのは、16世紀末の大洪水とされています。

江戸時代に耕地等に損害が出た洪水は、平均約6年に1回の割合で発生しており、1611年（慶長16年）に二ヶ領用水が完成したことで、川崎市域の耕地面積は飛躍的に増加しましたが、小向では耕地面積は変わらず、多摩川沿いでは依然として洪水に見舞われている状況でした。

(2) 梅の生産地

梅の木は多少の浸水であれば耐えられることから、小向地区では江戸時代の寛文年間（1661年～1672年）ごろに換金作物として植えられました。

明治初期には、塩漬け（梅干し）として加工した物は東京及び横浜の漬物屋へ、青梅は東京本所の青物市場や横浜青物市場に出荷されていました。

(3) 観梅の名所

観梅の名所として小向を有名にしたのは、1880年（明治13年）2月に、「朝野新聞」紙上に成島柳北が「小向村探梅ノ記」を6日から8日にかけて連載したことで、大きな反響を呼び、その後の同紙面において、多くの歌人、文人が相次いで寄稿しました。このことによって、これまでは梅の実を生産して市場へ出荷するのみであった小向の梅が、一躍、梅の名所として有名になりました。

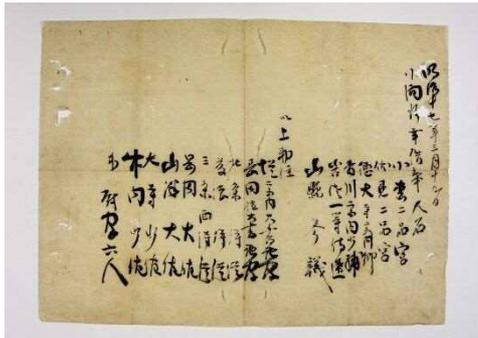
「小向村探梅ノ記」を要約すると、「新橋からそう遠くないところに一大香の世界あり。人は杉田の梅を称賛するが、杉田の梅はそれほど多くなく点在している。小向は、梅の林が群生し幾重にも続いており、開花の時期にはそれが白雲のように見える。」と記載されており、当時の小向梅林の規模や様子がうかがえます。

(4) 明治天皇の行幸

1884年（明治17年）3月19日、明治天皇は徳大寺侍従長や山縣参議を始めとした30余名の地位の高い官職を伴い行幸されました。到着後の明治天皇は、「奥山榎本」の梅林中央に作られた御野立所の玉座で御観梅、ご小宴遊ばされました。その場所は「玉殿跡」と呼ばれ、梅林の中の名所となりました。



市民ミュージアム所蔵
：小向梅林扁額



市民ミュージアム所蔵：小向行幸供泰人名



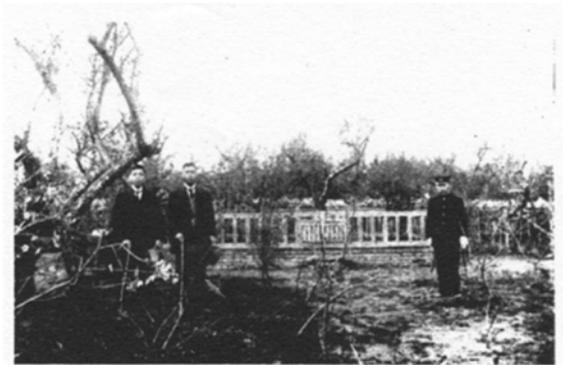
市民ミュージアム所蔵：盃「行幸廻梅」

(5) 梅林の盛衰

御幸（小向）の梅林は、江戸初期に小田原より運ばれ植樹された（※参照）との言い伝えがあり、一時約30町歩（約30ha）を占めるまでになりました。

明治初期に20町歩（約20ha）あった梅林は、1871年（明治4年）の洪水によって、7町歩5反（約7.5ha）まで減少してしまいました。

明治天皇の行幸時の梅林は、7町5反、東京ドーム約1.5個分の広さの梅林でありました。

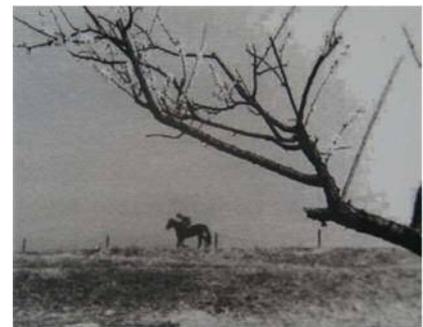


市民ミュージアム所蔵 橘樹郡案内記より



川崎市史 通史編3より

このように有名な梅林でも、多摩川の洪水や梅が老木となり縮小を余儀なくされていきました。1904年（明治37年）ごろ、残った梅の木についても実が結ぶことが少なくなり伐採されるところを、それを憂いた原三溪により、700株が横浜本牧の三溪園に移植されました。

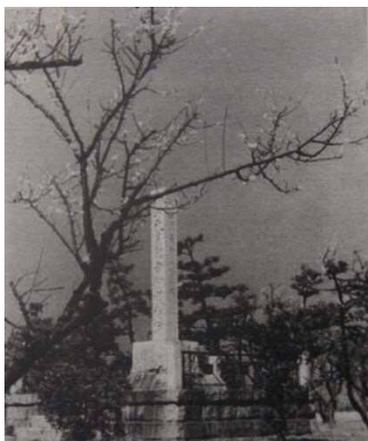


撮影：小串嘉男（1951年御幸梅林・乗馬）

※小田原の梅は歴史が古く、戦国時代の武将、北条氏が統治していた以前から梅の栽培が行なわれており、江戸時代には「東海道中膝栗毛」などに梅漬が小田原の名産品として登場しています。

(6) 行幸の碑

明治天皇の休憩をとった場所（玉座跡）には、1931年（昭和6年）に「明治天皇臨幸御観梅跡碑」が増山周三郎氏らによって建立されています。左面に「明治十七年三月十九日行幸」、右面に「侍従長 鈴木貫太郎書」、裏面に「増山周三郎 建之」と彫られています。



撮影：小串嘉男（1951年御幸梅林、明治天皇観梅の碑）

※増山周三郎氏は、川崎の最初の近代工場である「御幸煉瓦製造所」の2代目であり、橘樹郡郡会議員・御幸村村会議員、市制になってからは市会議員にも選ばれ、御幸小学校の建築費用等も寄附しています。



うめかおるコラム 「奥山榎本」(茶店)

天皇の行幸によって、ますます有名になった「奥山榎本」には、多くの文人・歌人（自称文人・歌人も含め）が訪れ、お願いすると掛け軸に署名したり短冊を置いていったりしたとのこと。ただし、名の売れた人の物は、飾っておくとの間にか無くなってしまったということでした。

○ 署名

榎本家所蔵資料

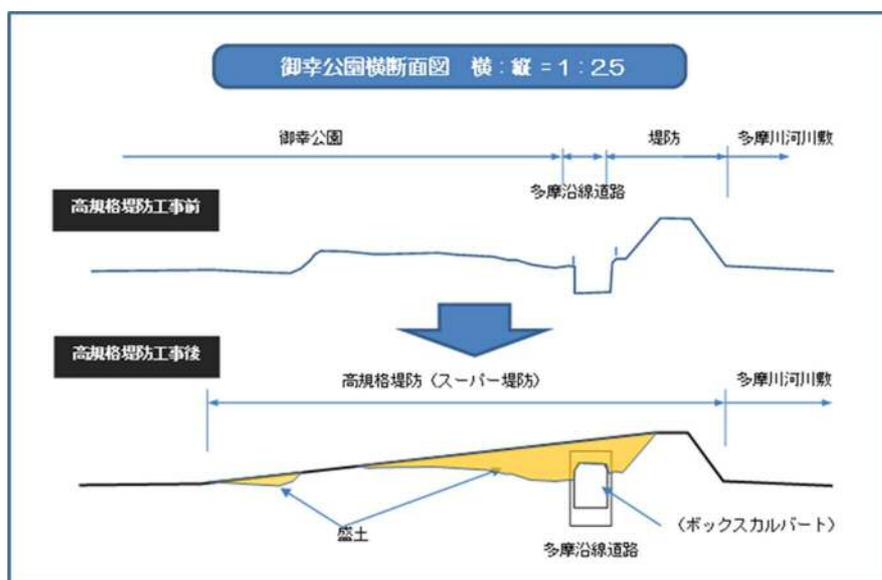
第3章 御幸公園の現状

1 御幸公園の概要

御幸公園は、1939年（昭和14年）に都市計画決定され1950年（昭和25年）に開設された公園で、幸区の都市公園の中では多摩川緑地の運動公園や夢見ヶ崎公園に次ぐ規模で、面積は30,028平方メートルを有しています。

公園の種別としては、住区基幹公園の中で一番規模の大きい地区公園として位置づけられています。

2010年（平成22年）から2ヶ年をかけた国土交通省の高規格堤防（スーパー堤防）工事によって現在の御幸公園の形状となりました。以前の御幸公園は、巨木化した高木が多い上に低い場所にあったため薄暗いイメージがありましたが、盛土と高木の伐採、多摩川とつながったことで開けた明るい公園となりました。

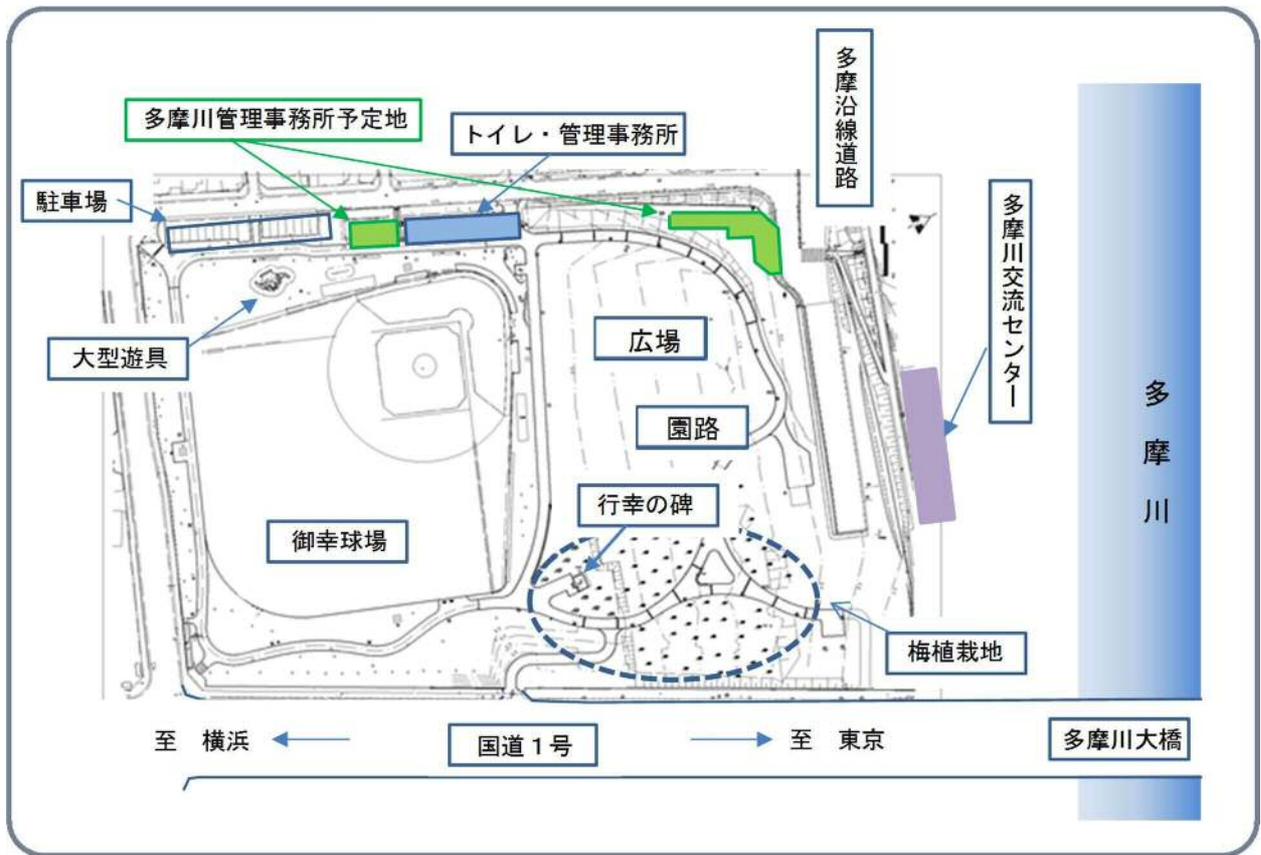


公園には、野球場（夜間照明付）や駐車場、広場、大型遊具、トイレ・管理事務所、園路、梅の植栽、行幸の碑などがあります。

また、御幸公園は、地震災害及びその二次災害により、広域にわたって大きな被害が予測される場合、被害から逃れるための必要な面積を有しており、地震等による家屋の倒壊及び火災の危険な状況が鎮圧するまでの間、避難する広域避難場所と位置付けられています。



御幸公園の施設



2 梅の植樹の状況

御幸公園への梅の植樹については、行幸の碑の横にある川崎市教育委員会による御幸梅林の掲示板に、昭和15年付近に散在する七拾株ほどの梅樹をこの地域に集め植え替え、これを市営の梅林として昔をしのぶようすとして残した。と記載があります。

その後、国土交通省の高規格堤防（スーパー堤防）工事によって、すべての梅が仮移植後、現在の場所に植え替えられました。

2014年(平成26年)に、残った梅を確認したところ42本あり、平成27年度に新たに12本植樹し、合計54本が行幸の碑の周辺に植えられています。ただし、以前から植えられていた梅は、老木が多く樹勢が衰えている状況です。

2016年(平成28年)10月29日に、御幸公園で100万本植樹祭を開催し、新たに梅の高木5本と苗木100本を植樹しました。

第4章 計画の基本的な方向性

1 計画の考え方

幸区の魅力であり資源の一つである御幸公園の梅林を復活し、地域への愛着を育み憩いの場を創造し市民とともに地域コミュニティの活性化を図るため、3つの基本的視点によって検討を進めました。

(1) 歴史の「継承」

川崎市は多摩川に添って形成されています。御幸周辺も多摩川との深い関わりがあり、またその多摩川の恵みによって、そして人の営みによる長い歴史の中で成り立っています。地域を知ることは、こうした先人の労苦を知り積み重ねてきた歴史を知ることから始まります。

そして、その歴史や梅香事業の取組みを後世に伝えていくことが必要であるとともに、認知度の向上を図り多くの人々に参加を募る取組みが必要です。

(2) 梅林の「復活」

幸区の資源であり財産である小向の梅は、現在その面影をあまり見ることはできません。地域の特色を活かしたシンボルとして、市民との協働による梅林の復活が求められます。

御幸公園を核とした地域コミュニティの活性化を図るため、また御幸公園梅香事業による梅林「復活」の取組を一過性のものにならないためにも、植樹や維持管理など市民と様々な連携や協働を進めて行く必要があります。

(3) コミュニティの「場」

梅林の復活に伴う整備はもちろんのこと、御幸公園の公園機能を活かす多面的な整備が求められています。

梅林に関わる市民に限られず多くの市民に見守られる公園は、行き届いた管理が可能になります。様々な用途で、様々な世代の人々が、集い・楽しめる環境の整備が必要です。

また、多摩川と国道1号線の橋梁に近接するオープンスペースである地理的条件から、災害時などの危機管理の視点での整備も必要です。

3 計画の基本目標

御幸公園梅香事業の実現に向けて基本的視点を踏まえ、計画に7つの基本目標を位置づけます。

基本目標

- (1) 魅力の発信
- (2) 歴史・文化の継承
- (3) 梅林の復活
- (4) 梅林の活用
- (5) 梅林の保全
- (6) 未来へつなげる取組
- (7) 公園の利用促進

(1) 魅力の発信

首都圏で有名であった御幸（小向）梅林は、明治後期に無くなり既に100年以上経過しています。川崎市で梅林と聞かれても、御幸（小向）の名称を思い浮かべる方は少数になっています。

郷土の財産である梅林について、その存在の認知度を上げるよう、また梅香事業の取組みの広報活動を通して、地域の魅力発信に努めます。

(2) 歴史・文化の継承

現在では御幸公園でしかその面影を見ることが出来ない梅林ですが、梅林の歴史は江戸時代から二百数十年、観梅の名所としても関東近郊で有名になった二十数年余の歴史があります。

歴史を学ぶことは、これからの未来に向けて新しい意味や価値を再発見することです。地域の歴史を知り、地域への愛着や誇りを育むことができるよう、歴史や地名の由来についての講演会等の学ぶ機会を創設します。

(3) 梅林の復活

川崎市の観梅の名所として、また地域のシンボルになるよう市民とイメージを共有し整備デザインを検討します。

また、植樹に関しては、より円滑に樹木数が増加できるように、事業の連携や各種団体からの助成を用いるとともに、市民の寄附による植樹手法も検討し、魅力ある梅林づくりを推進します。

(4) 梅林の活用

市民とともに植樹し育ててきた梅は、観梅の存在だけではなく梅の実やそれに携わってきた地域の人達も地域の大きな財産です。

御幸公園を中心に区民が集い・交流を深めるため、御幸公園の梅林、梅の果実などを活用した様々な取組みやイベントを地域の皆さんと協働で推進し、世代間交流や地域コミュニティの活性化に努めます。

(5) 梅林の保全

現在、幸区の公園緑地は、町内会や自治会等を中心とした29の公園緑地愛護会と79の管理運営協議会による日常的な維持管理活動によって支えられています。

御幸公園についても、市民協働によるきめ細やかな維持管理のみならず、地域コミュニティの核としての公園の利活用も目的として、市民主体の管理運営団体の設立をめざします。

(6) 未来へつなげる取組

御幸公園の梅林を後世に伝えていくためには、子どもたちの記憶に残る取組みが必要です。学校教育と連携して、御幸公園の場所を活用した取組やイベント、総合学習等での梅林の歴史などを学び記憶に残すことで、思い出としても次世代に受け継いでいけるよう取組みを進めます。

(7) 公園の利用促進

御幸公園を地域コミュニティの場として利用していただくためには、幅広い年齢層の様々な用途に対応した公園機能が求められます。観梅や各種イベントのほか、公園機能としての広場や運動施設の整備、そして健康関連施設の充実を図ります。

また、御幸公園は、広域避難場所に指定されていることや国道1号と多摩沿線道路の交差点部に位置することから、災害時の帰宅困難者対策などを含め今後の防災ニーズに沿って必要な整備を検討します。

うめかおるコラム 「梅林と文学2」(大町桂月 小向梅林の跡—南郊の梅—)

在りし日の梅林については、大町桂月の「小向梅林の跡 —南郊の梅—」の一節には、「～三つ並び居りし梅園、一つ減り、二つ減り、終にこの春に至りて、残りし一園の梅も、富豪に買いとられて、横浜に行けりといふ。やれやれ、南郊の名勝、一つ減りたり。～ 」とあります。



うめかおるコラム 「梅林の樹種と本数」

明治天皇行幸時の梅林の本数は、3,704本で、主なものは、白加賀2,816本、ヤツブサ350本、八重ヤツブサ250本、赤加賀250本でありました。

(榎本家 明治天皇行幸に際しての下調べ書より)



第5章 実施計画

本計画の実施にあたっては、区民・企業・学校・区役所全体での協働が前提になり、それぞれが連携して、具体的な取組みを推進する必要があります。

また、今後本章に示す実施計画に基づく事業展開を図るにあたり、関係機関との詳細な調整を進めていくことになります。

1 魅力の発信

(1) 情報発信

ホームページや市政だよりなど様々な手法や機会を通して、御幸公園梅香事業や御幸（小向）の歴史などについて、広く情報発信を推進します。

- 1) ホームページによるPR
- 2) 市政だより等による広報

(2) 写真展の開催

梅の名所としての復活をめざす梅香事業の取組みを知ってもらうとともに、梅の良さの再認識や市民の各々が持つ御幸公園の梅林のイメージを膨らませていくため、写真展を開催します。また、月日の経過とともに薄れていく梅林の姿、その面影のある貴重な写真を掘り起し貴重な歴史資料として展示する回顧展の開催を進めます。

- 1) 梅林写真展の開催
- 2) 回顧展の開催

(3) 梅まつりの開催

市制100周年記念事業として、区民協働で梅まつりの開催を目指します。また、市制100周年平成36年度の間接点としての平成31年度のハーフイベントや区政50周年イベントで梅まつりを開催します。

また、梅まつりの一環として、御幸公園の梅林の景色を活かした野点や句会、御囃子（おはやし）などの伝統文化・芸能の実演について、区民との協働・連携による開催をめざします。

(4) 梅林ツアーの開催

梅の開花時期に合わせ、各地の梅林で行われている梅まつりの開催状況や梅を活用した様々な取組み、そして梅の植樹状況や種類、付属施設など梅林整備などの参考にするために梅林バスツアーの開催を検討します。

2 歴史・文化の継承

(1) 講演会等の開催

地域への愛着や誇りを育むことができるように、郷土史研究者や歴史学者などによって、御幸地区の歴史や文化、地名の由来などをテーマに講演会を開催します。

1) 歴史講座テーマ

- ・「小向梅林と御幸地区の歴史」
- ・「明治時代の小向梅林」
- ・「川崎市の近代化と幸区」

2) 地名講座テーマ

- ・「地名から見た幸区」

平成28年度事業

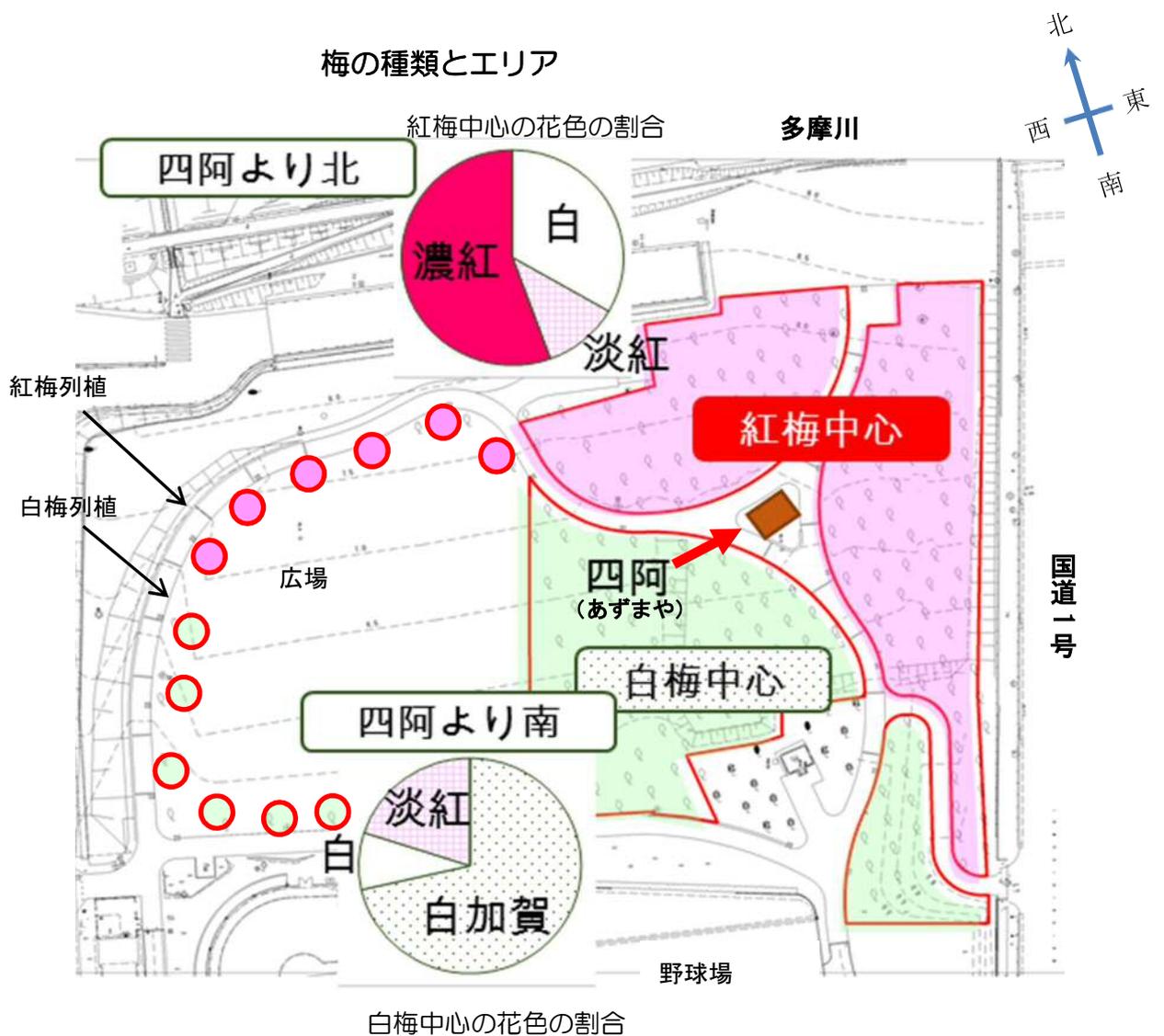
2016年度 平成28 年度	テーマ	小向梅林と御幸地区の歴史① ～江戸時代から御幸村の成立まで～
	開催日	11月8日(火) 13:30~16:00
	場所	幸区役所4階 会議室
	講師	長島 保(郷土史研究者・2015年度川崎文化賞受賞)
	内容	明治天皇の行幸を中心に、江戸時代からの御幸地区の歴史(梅生産と江戸市中への出荷、川崎宿中興の功労者・田中丘隅、多摩川の氾濫など)について
	テーマ	小向梅林と御幸地区の歴史② ～御幸村の成立から現在まで～
	開催日	12月6日(火) 13:30~16:00
	場所	幸区役所4階 会議室
	講師	長島 保(郷土史研究者・2015年度川崎文化賞受賞)
	内容	明治天皇の行幸以降の御幸地区の近代化の歴史(近代工場の進出と川崎の近代化を牽引など)について

3 梅林の復活

(1) 梅林の整備方針

1) 植栽する梅の品種

梅の植樹エリアの中央にある四阿（あずまや）を境に、南側はかつての小向梅林にあった白梅でかつ実梅を中心とした明治初期の小向梅林を彷彿させるエリアとします。また、北側については、多くの市民から観梅の名所として認識されるよう、梅林としての華やかさや見ごたえを意識した多品種で紅梅中心のエリアとします。



2) 実梅と花梅

花を楽しみ、実でも楽しめるように、花梅、実梅の混植とします。

3) 花を長く楽しむ

多くの花を楽しむことができるよう品種を多くし、また長く花を楽しめるように下記の表などを参考にしながら、梅の開花時期に考慮した植樹を行います。

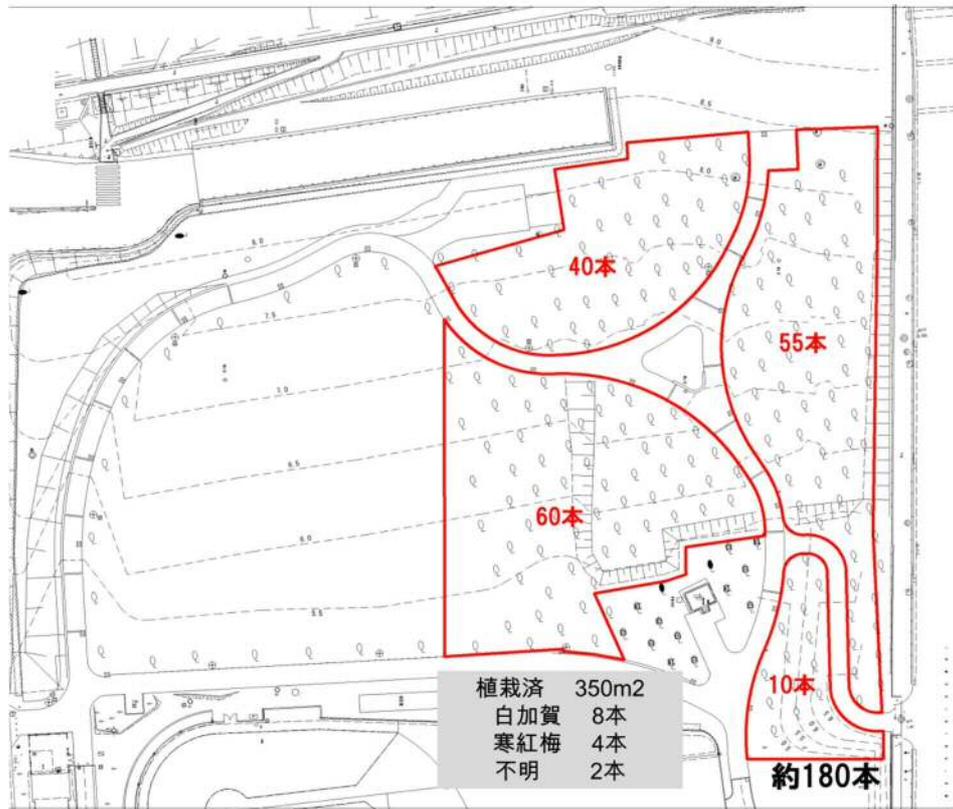
主な梅の特徴と開花時期

品種名	花色	大きさ	花弁	12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
紅冬至	薄紅	2.3~2.9	一重												
冬至	白	2.4~2.6	一重												
八重寒紅	紅	2.2~2.6	八重												
竜狭小梅	白	小輪	一重												
玉牡丹	白	2.6~3.0	八重												
南高	白	中輪	一重												
大盃	濃い紅	2.4~3.0	一重												
月影枝垂	青白	2.1~2.4	一重												
道知辺	紅	2.8~3.0	一重												
白加賀	白	中大輪	一重												
梅郷	白	中大輪	一重												
八重野梅	黄白	2.2~2.6	八重												
鹿児島紅	濃紅	中輪	八重												
紅千鳥	鮮紅	中輪	一重												
見鷲	淡紅	2.8~3.0	八重												
緑萼枝垂	青白	2.3~2.6	八重												
藤牡丹枝垂	淡紅	2.8~3.7	八重												
玉光枝垂	紅	2.6~2.8	一重												
楊貴妃	紅褐色	3.7~4.0	八重												
開運	紅	2.7~2.9	八重												
淋子	紅褐色	2.2~2.6	八重												

参考文献：梅田操著「ウメの品種図鑑」

4) 梅の木の植樹間隔

梅の木の植栽間隔については、より多くの梅を楽しむため、多く植栽できるように植栽間隔を既存の植栽と同じように、4~5m間隔の植樹とし、合計で180本程度の梅林をめざします。



(2) 様々な手法による植樹の推進

梅林の復活をより早く進められるように、公益財団法人河川財団の助成事業や建設緑政局の「市民100万本植樹運動事業」への申請や連携など、様々な機会を通して植樹の推進を図ります。

1) 河川財団の助成金の活用

河川財団では、財団に造成されている河川基金からの収益や(公社)ゴルフ緑化促進会からの交付金により、「河川基金助成事業」と「河川美化・緑化助成事業」という2つの助成事業を行っています。「河川美化・緑化助成事業」は、協力ゴルフ場水系内河川およびその近傍に植樹等を行おうとする、地方公共団体、NPOなどを対象に、ゴルファーの協力金によって国土を緑で美しくする運動の一環として行っているものであり、河川やその近傍での植樹等に対して助成を行っています。

梅香事業では、2015年度(平成27年度)から、財団に「河川美化・緑化助成事業」助成金の申請を行い、その助成金によって御幸公園での梅の植樹(2015年度:12本、2016年度:13本(予定))を行っています。

今後も御幸公園での梅林の復活に向けて、引き続き河川財団の助成金申請を行い、梅の植樹を進めます。

2) 100万本植樹運動事業との連携

本市建設緑政局は、ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上などに向けて、「市民100万本植樹事業」を市制100周年の平成36年までの達成を目指して、植樹を実施しています。(平成27年10月時点で約66万5千本の植樹実績)

平成28年度の植樹祭は、10月29日土曜日に市長及び正副議長、来賓など多くの出席により御幸公園で開催され、梅の高木を5本(白加賀2本、豊後1本、鷲宿1本、紅加賀1本)と梅の苗木100本を含む低木400本を植樹しました。

4 梅林の活用

地域との協働によって育まれた梅林、その景色と産物である梅の実は重要な財産です。。

市、区の節目での梅まつりや梅の成長に合わせたイベントを区民と協働で開催するとともに、梅の実のなり具合に合わせて御幸公園の梅の実をPRし、梅の実の活用について地域と連携して検討します。

(1) 梅の実の活用

梅は日本には奈良時代には伝わっていたようで、当初は果物として食されており、貴族などに普及した平安時代には、医薬書に梅の効用が記されています。戦国時代には、梅干は軽くてかさばらず、日もちもよいので、携帯食として大変重宝されるとともに疲労回復剤としての役割や、殺菌・整腸剤として欠かすことのできない貴重品でした。梅干が庶民の食卓にのぼるようになったのは、江戸時代からです。

梅の実については、新たな地域資源として、地域コミュニティの醸成を図りつつ市民や事業者などと連携しながら、梅干や梅酒のほか、和菓子、洋菓子、ジャム、料理などの活用を検討します。

また、実のなり具合をみながら実の収穫をイベントとした「収穫祭」の開催を検討していきます。

(2) 梅の苗木の活用

御幸公園梅香事業では、幸区への梅の普及を進めていきます。学校や事業所など梅香事業に賛同していただいた方への植栽として、100万本植樹祭で植えた梅の苗木提供を図ります。

5 梅林の保全

御幸公園の梅林の復活は、植樹して完成ではありません。これから後世に伝えていくために適正な維持管理や施設についても必要になります。

(1) 維持管理

現在の御幸公園の梅の木は、樹勢の弱ったものや新植されたものが多く、当面は樹勢回復や新植の定着に向けての作業が中心となります。

樹勢回復後の通常の維持管理作業は下記の表に示すようになりますが、行政だけでの管理ではなかなかきめ細やかな管理は難しいことから、行政、市民、地域住民との協働作業をめざします。

協働作業に向けた維持管理の在り方や、梅の専門家と言われる方も少なく、維持管理の手法も研究していく必要があります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	果実発育期						落葉			開花期			
施肥	実肥(実が多い場合) ---> -->			施肥(礼肥) -->				施肥 -->		石灰施用 ----->			
水やり	水やり(雨が少ない場合) ----->												
実の管理	摘果 -->		収穫 -->									人工受粉 ----->	
剪定					夏季剪定 -->			冬季剪定 -->			冬季剪定(花後) ----->		
除草・芝刈り	除草・芝刈り(数回) ----->												
移植								植えつけ・移植 -->			植えつけ(春植え) ----->		
病虫害の防除	ウメカイヨウ病、黒星病 -->			アブラムシ類、ススハン病など ----->						ウメカイヨウ -->			
凡例	——> 実線: 通常必要と思われるもの -----> 波線: 場合によって必要となるもの												

(2) 梅の木の保全

梅の根が踏み固められると育成に支障が出る可能性が大きいことから、植栽地には人が出入りできないように、歩行者通路とロープ柵や生垣等による仕切りを設けます。



6 未来へつなげる取組

御幸公園の梅林を後世に伝えていくためには、大人たちの楽しんでいる姿も重要ですが、子どもたちの記憶に残る取り組みが必要です。学校教育と連携した絵画コンクールや写真展、御幸公園の梅林を活用した取組やイベント、総合学習等での梅林の歴史などを通して、思い出としても次世代に受け継いでいけるよう取組を進めます。

(1) 学校における梅の学習

幸区では郷土の歴史資産として御幸公園の梅林があります。郷土への愛着を育むため、御幸公園の梅林について、総合学習等の中で子どもたちに伝えていきます。

(2) 絵画コンクール等の実施

これからの植樹や整備によって、御幸公園は梅林公園として生まれ変わります。その御幸公園ならではの風景を子どもたちの記憶に残すよう、学校教育と連携して写生やスケッチの場としての活用を進めます。

(3) 学校との連携による魅力発信

梅まつりや各種イベントに際して、学校と連携したポスター作製などを進め広く魅力発信を行います。

(4) 学校への植樹の促進

かつて梅林は小向一帯に広がっていました。子どもたちの記憶に残るよう、学校における梅の教育に合わせ、子どもたちの身近な学校への梅の植樹を推進します。

7 公園の利用促進

街中や多摩川でもウォーキングやサイクリングなどの利用者の増加が感じられます。健康志向が進展し公園にも新たなニーズが求められています。

観梅や梅のイベントのほか、公園機能としての広場や散策路（ウォーキングコース）の整備、そして背伸ばしベンチなど健康増進関連施設の充実を図ります。

また、御幸公園は、広域避難場所に指定されていることや国道1号と多摩沿線道路の交差点部に位置することから、災害時の帰宅困難者対策などの今後の防災ニーズに沿った公園の在り方について検討を行います。

公園施設のイメージ



(1) 散策路の整備

これから育まれていく梅林と銀杏の大木による木陰や多摩川を背後にした開けた空間は、御幸公園ならではのものになります。ウォーキングコースの設置や回遊しながら梅の花を楽しめるように散策路の整備を進めます。

(2) 健康増進関連施設の整備

少子高齢化の進展は、これまでの子どもための公園から、様々な利用者に対応できる公園機能の転換期を迎えています。高齢者の気軽な体力づくり、健康維持、介護予防の健康運動などのために、健康器具の整備を進めます。

(3) 広場の改修

地域の核として利用や市制 100 周年記念事業に向けた様々なイベントで利用できるスペースとして、御幸公園中央部を芝生広場として改修を進めます。

(4) 災害時への対応

近年頻発する大雨、土砂災害など様々な自然災害、そして関東地方南部は今後 30 年以内にマグニチュード 7 クラスの大地震が発生する緊迫性が高いことなど、本市としても危機管理への対応が早急な課題です。

御幸公園はその地形的条件を踏まえ、災害に強い都市に向けて「川崎市防災都市づくり基本計画」の主旨の基づき必要に応じた対策を進めます。

施策の体系

目的	基本的視点	基本目標	取組のイメージ
<p>御幸公園の梅林を市民とともに復活し、地域への愛着を育み憩いの場を創造し地域コミュニティの活性化を図る</p>	<p>1. 歴史の「継承」 歴史や梅香事業の取組みを後世に伝えていくことが必要であるとともに、認知度の向上を図り多くの人々に参加を募る取組みが必要。</p> <p>2. 梅林の「復活」 地域のシンボルとして、市民との協働による梅林の復活。 梅林や梅の取組みを通して、市民と様々な連携や協働を進め地域コミュニティの活性化。</p> <p>3. 世代間交流の「場」 梅林の復活に伴う整備や御幸公園の公園機能を活かす多面的な整備が必要。 様々な用途で、様々な世代の人々が、集い・楽しめる環境の整備が必要</p>	<p>魅力の発信</p> <p>歴史・文化の継承</p> <p>梅林の復活</p> <p>梅林の活用</p> <p>梅林の保全</p> <p>未来へつなげる取組</p> <p>公園の利用促進</p>	<p>情報発信</p> <p>写真展の開催</p> <p>梅まつりの開催</p> <p>梅林ツアーの開催</p> <p>講演会等の開催</p> <p>梅林の整備方針</p> <p>様々な手法による植樹の推進</p> <p>梅の実の活用</p> <p>梅の苗木の活用</p> <p>維持管理</p> <p>梅の木の保全</p> <p>学校における梅の学習の推進</p> <p>絵画コンクール等の実施</p> <p>学校との連携による魅力発信</p> <p>学校への植樹の促進</p> <p>散策路の整備</p> <p>健康増進関連施設の整備</p> <p>広場の改修</p> <p>災害時への対応</p>

第6章 計画の実現に向けて

1 推進体制

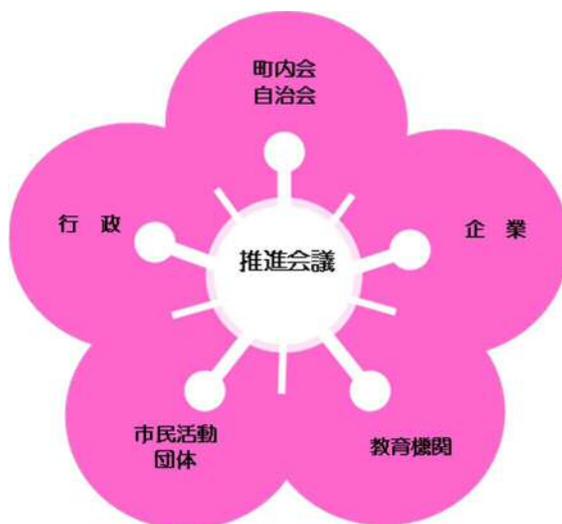
地域の課題を自ら発見し解決する区民協働の取り組みとして、また区民の地域への愛着と誇りを持ち郷土の歴史や文化を継承していくためにも、「御幸公園梅香事業」では、各プロセスにおいて区民との協働で事業を推進していく必要があります。

(1) 協働のイメージ

想定される協働のプロセスとしては、「御幸公園梅香事業推進計画」においては、「御幸公園梅香事業推進会議」で協議・検討や区民アンケートによる意見収集、梅林の整備では区民植樹の参加をはかる「うめかおる寄附・募金」の設立、梅林等の維持管理については区民協働による維持管理システムの構築、計画の進行管理には「御幸公園梅香事業推進会議」でおこなわれています。

プロセス	協働のイメージ
計画づくり	地元町内会や老人クラブ、子ども会代表、企業、観光協会等からなる「御幸公園梅香事業推進会議」で協議・検討
整備	寄附・募金による植樹 区民協働による維持管理システムの構築
運営	各種イベント等について、「御幸公園梅香事業推進会議」を中心とした区民参加による実行委員会によって運営
維持管理	区民協働による維持管理システムの構築
計画の進行管理	「御幸公園梅香事業推進会議」で進行管理

(2) 協働かたち



そして、これから進められる梅林づくりや様々な取り組みには、「梅香事業推進会議推進会議」を中心とした町会会・自治会、企業、市民活動団体、教育機関、行政が協働・連携して活動している仕組みづくりが必要です。

行政としても、これまで以上にその責任を果たしつつ、御幸公園の魅力向上に向けて取り組むことが求められています。

また、協働による事業推進の拠点として区単位の事業展開や区役所機能に注目されています。幸区の総合調整機能を活かしつつ、地域との連携を取りながら、区役所一丸となった新たな協働スタイルによる事業推進をめざします。

(3) 協働による梅林づくり

御幸公園の梅林を市民と協働で復活する取組みとして、市民の梅林復活への思いを直接反映できよう植樹に関する寄附のシステム「うめかおる寄附」と気軽に少額でも趣旨に賛同していただけるように「うめかおる募金」を設立します。

また、寄附の金額等によって、寄附者への謝意として銘板等への氏名の記載を検討します。

うめかおる寄附、募金のイメージ

	うめかおる寄附		うめかおる募金
	現金	梅の木等	現金
個人	ふるさと応援寄附金	要綱設置予定	
団体等			

うめかおるコラム 「梅の原産地」

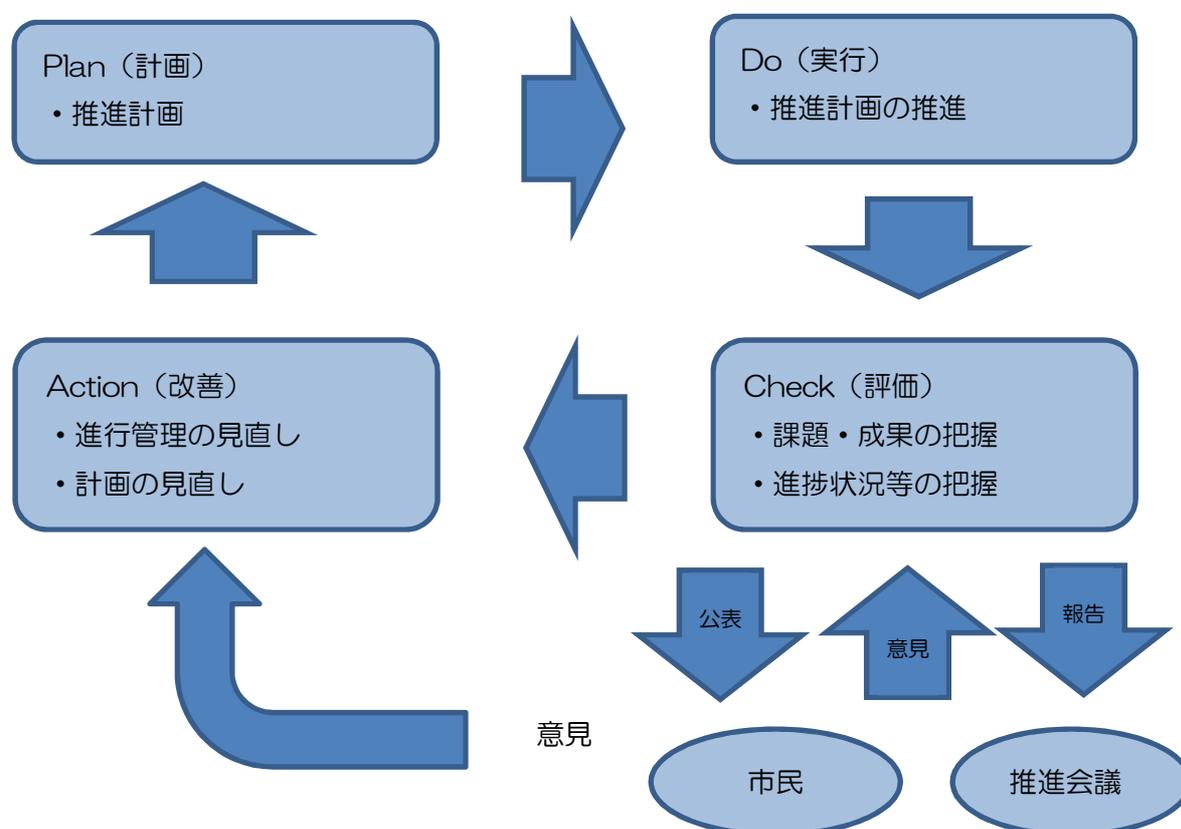
梅の原産地は諸説ありますが、中国が有力のようであります。中国では3000年以上前から梅の実の加工品を薬用として利用していたようで、中国の古い薬物書の「神農本草経」に生薬としての効用が説かれています。



2 推進計画の進行管理と評価

御幸公園を核として、区民の集いの場を創造し地域コミュニティの活性化をめざすために、行政が事業として推進していく側面と、市民・企業等の自発的な活動で事業を推進していくという2つの側面で梅香推進計画を推進していく必要があります。また、時代状況の変化が急速な現代にあっては、計画で設定した推進施策等の見直しも求められます。

そのため、今後も市民・企業、川崎市等様々な主体からなる「梅香事業推進会議」により、毎年の課題整理や進行管理などを行うほか、計画の見直しに際しては、計画（Plan）・実行（Do）・評価（Check）・改善（Action）のPDCAサイクルに基づき、より市民の意見を反映できるよう実施していきます。



御幸公園梅香事業実施要綱

(目的)

第1条 幸区の魅力ある地域資源の一つであり、明治天皇が観梅に行幸された御幸公園において、豊かな緑、文化、芸術、歴史等の特徴を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りを育てていくため、様々な主体との連携及び協働を通して、賑わい及び彩り豊かな「御幸公園梅香（うめかおる）事業」（以下「梅香事業」という。）を実施する。

(実施場所)

第2条 梅香事業の実施場所は、次のとおりとする。

幸区東古市場1 御幸公園内

(梅香事業の内容)

第3条 梅香事業の内容は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 地域との協働事業に関する事。
- (2) 学校との連携事業に関する事。
- (3) 梅林の保全に関する事。
- (4) 梅林の活用に関する事。
- (5) 御幸地区の歴史・文化に関する事。
- (6) イベント等の企画及び実施に関する事。
- (7) 梅の植樹に係る寄付に関する事。
- (8) その他必要な事項に関する事。

(御幸公園梅香事業推進会議)

第4条 梅香事業を実施するに当たり、御幸公園梅香事業推進会議を設置する。

(その他)

第5条 この要綱の定めのない事項については、区長が定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月25日から施行する。

御幸公園梅香事業推進会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 御幸公園梅香事業実施要綱第4条に基づき、御幸公園梅香事業（以下「梅香事業」という。）を地域住民とともに協働して推進するため、御幸公園梅香事業推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 推進会議は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 地域との協働事業の検討
- (2) 学校との連携事業の検討
- (3) 梅林の保全に関する意見集約
- (4) 梅林の活用に関する検討
- (5) 御幸地区の歴史・文化に関する調査・研究
- (6) イベント等の企画の検討
- (7) 梅の植樹に係る寄付手法の意見集約
- (8) 梅香事業に関する調査・研究
- (9) 事業報告書案の集約
- (10) その他必要な事項

(構成)

第3条 推進会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

- 2 委員長は、区長をもって充てる。
- 3 副委員長は、道路公園センター所長をもって充てる。
- 4 委員長は、会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 第1項に掲げる構成員のほか委員長が必要と認める場合は、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(推進会議)

第4条 委員長は、必要に応じて推進会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員は、推進会議に出席できないときは、その指名する者を代理で推進会議に出席させることができる。

(事務局)

第5条 推進会議の事務局は、幸区役所道路公園センターに置く。

(その他)

第6条 この要綱に定めのない事項については、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月25日から施行する。

別表 (第3条関係)

	所属団体等
1	町内会・自治会
2	幸区老人クラブ連合会
3	幸区子ども会連合会
4	幸観光協会
5	幸区スポーツ活動連合振興会
6	企業
7	市立小学校
8	教育委員会
9	区長
10	道路公園センター所長

「御幸公園梅香事業」推進会議 名簿

委員

	所属団体等	氏名	役職
1	幸区町内会連合会	鏑木 茂哉	会長
2	古市場町内会	金井 弘年	町内会長
3	小向仲野町新生会	佐野 昇	町内会長
4	幸区老人クラブ連合会	佐藤 例藏	会長
5	幸区子ども会連合会	神谷 厚子	副会長
6	幸観光協会	深瀬 幹男	会長
7	幸区スポーツ活動連合振興会	君和田 孝	会長
8	株式会社東芝 小向事業所	永田 健二	総務部総務担当グループ長
9	市立小学校	高木 充	西御幸小学校校長
10	教育委員会文化財課	服部 隆博	課長
11	幸区役所	上野 葉子	区長
12		吉濱 匡孝	道路公園センター所長

事務局

	所属	氏名	役職
1	幸区役所道路公園センター	箕輪 秀生	整備課協働推進担当課長
2		笠原 康顕	管理課庶務係長
3		藤間 昭博	管理課庶務係主任
4		長谷川 祐馬	管理課職員
5		田中 昭子	整備課公園整備係長
6		安達 大輝	整備課職員
7		山下 麻美	整備課職員

平成28年度御幸公園梅香事業スケジュール

事業名	No	内容(案)	具体例	平成28年度											
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1)地域との協働事業				事業内容の検討 → 実施手法の検討 →											
(2)学校との連携事業	1	絵画コンクールや写真展など		学校等と調整、実施 ○小学校校長会説明協力依頼 ○中学校校長会説明協力依頼											
	2	市立総合科学高校との連携による魅力発信	デザインポスター、モニュメント	※ 実施内容、実施時期は学校のカリキュラム等と調整して決定											
	3	収穫祭への参加		ハーフイベントを目指して平成30年度に検討											
	4	学校への梅植樹促進		平成30年度からの植樹に向けて検討											
	5	学校における梅の学習		学校のカリキュラムにあわせて、検討											
(3)梅林の保全	6	梅の品種の検討		○梅の品種の検討、決定(第6回会議) ○100万本植樹祭 梅の植樹(5本、苗木100本)											
	7	植栽範囲、配置の検討		○植栽範囲、配置等の検討(第5回会議) 工事(市施工) 梅の植樹(13本程度)											
	8	地域による維持管理	維持管理手法、体制の検討	○維持管理内容の洗い出し(第5回会議) ○具体的な管理手法等の検討											
(4)梅林の活用	9	梅の実の加工	お菓子、ジャム、梅干等	※ アイデアがあればその都度、会議内で議論する(地域の協力店等への打診等)											
	10	梅加工品の販売	販売手法の検討	○試食会(第7回会議)											
(5)御幸地区の歴史・文化	11	地名講座	「御幸」という地名(地名研究所)	詳細検討(文化財課、事務局) ○平成28年度実施内容の決定(第5回会議)											
	12	歴史講座	「小向梅林」	◎11/8PM 第1回講演会開催 ◎1/2/6PM 第2回講演会開催											
(6)イベント等の企画及び実施	13	梅まつりの開催	ハーフ区制50周年、市制100周年	ハーフイベントにあわせて、平成29年度から検討											
	14	伝統文化・芸能などの実演	野点、句会、囃子等	ハーフイベントにあわせて、平成29年度から検討											
	15	写真展		○企画(第6回会議) 広報等 写真募集期間(2/1~3/17) ※展示はH29/4/17~ 展示作品決定(第9回会議)											
(7)梅の植樹に係る寄附	16	梅の植樹のための寄附		○手法の提案(第5回会議) ○スケジュールについて											
(8)その他	17	他の梅林の視察		○視察場所の検討 ○視察場所の決定											
	18	梅林の名称		平成30年度以降に検討 ○平成28年度梅林視察の実施(第8回会議)											
御幸公園梅香事業推進計画		推進計画の策定		資料の収集 関係機関との調整 5月25日 ○第5回会議 委員への素案の提示(第6回会議) 9月末 計画に対する意見の提出 案の提示(第7回会議) ☆ 計画の策定											
推進会議		計画に関する市民意見の聴取 年4回程度		○推進会議 ○区民アンケート8/23~9/5 ○推進会議 ○歴史講演会 ○区民アンケート(有効回答数:945件)											
				○第5回会議 5月25日 ○第6回会議 8月25日 ○第7回会議 11月16日 ○(第8回会議) ○第9回会議 3月下旬											

会 議 摘 録

会議名称	御幸公園 ^{うめかおろ} 梅香事業第6回推進会議
日 時	平成28年8月25日(木) 15:30～17:00
会 場	幸区役所4階第3会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>上野区長(委員長)、道路公園センター 吉濱所長(副委員長)、鏑木委員、金井委員、佐野委員、佐藤委員、神谷委員、君和田委員、永田委員、服部委員</p> <p>【関係者】</p> <p>総務課 吉原担当係長、原田職員</p> <p>【事務局】</p> <p>道路公園センター 管理課 笠原係長、藤間主任、長谷川職員 整備課 箕輪担当課長、田中係長、山下職員、安達職員</p>
欠席者	深瀬委員、高木委員
傍聴者	5人
配布資料	<p>議事次第</p> <p>資料1 梅の品種について(案)</p> <p>資料2-1 写真展について</p> <p>資料2-2 「御幸公園梅香事業写真展」募集要項(案)</p> <p>資料3 平成28年度梅林視察について</p> <p>資料4-1 寄附等について(案)</p> <p>資料4-2 御幸公園梅香事業寄附等要綱(案)</p> <p>資料5 御幸公園梅香事業推進計画(案)</p> <p>資料6 「御幸地区の歴史・文化」講演会について(案)</p> <p>資料7 「市民100万本植樹運動」御幸公園植樹祭の開催について(案)</p> <p>参考資料1 御幸公園梅香事業実施要綱</p> <p>参考資料2 御幸公園梅香事業推進会議設置要綱</p> <p>参考資料3 「御幸公園梅香事業」推進会議 名簿</p> <p>参考資料4 平成28年度御幸公園梅香事業実施計画(案)</p> <p>参考資料5 計画期間の主な取組(案) H27～H36</p> <p>参考資料6 御幸公園梅香事業第5回推進会議摘録</p>
議 題	<p>(1) 梅の品種について</p> <p>(2) 写真展について</p> <p>(3) 平成28年度梅林視察について</p> <p>(4) 寄附等について</p>

	<p>(5) 御幸公園梅香事業推進計画（案）について</p> <p>(6) 今後のスケジュール</p>
決定事項	<p>◎ 梅の品種について、案2で決定した。</p> <p>◎ 写真展は、場所は問わず直近に撮影したものとする。賞は設けず参加賞のみ贈呈する。</p> <p>◎ 平成28年度梅林視察について、①東京コースで実施する。</p> <p>◎ 寄附については、案のとおり行う。</p> <p>◎第7回推進会議の日程は、「平成28年11月16日（水）15：30～」とする。</p>
会議の内容 及び 主な発言	<p>1 開会</p> <p>○委員長挨拶</p> <p>通算6回目の会議となり、今までいただいた意見をもとに推進計画の案を作成した。今回の議題には具体的な方向性を議論するものもあり、来年度以降の事業につなげていけるよう意見をいただきたい。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 梅の品種について</p> <p>事務局から、資料1の説明を行った。</p> <p>○白加賀中心でも良いが、観梅を目的としているのであれば、色々な種類を観られた方が良い。ただ種類を混ぜてしまうと、印象がぼやけてしまうので別のエリアに植えられたら良い。</p> <p>→園路に沿って1本ずつ植えることも考えられる。</p> <p>○かつての小向梅林ということは写真などを参考にしているのか。</p> <p>→残っている写真のほとんどが白黒写真で梅林全体を写したものはないが、品種は白加賀が多かったことがわかっているため、「かつての小向梅林＝白梅（白加賀）中心」としている。</p> <p>○寄附で受けた梅はどこに植えるのか。</p> <p>→場所は品種の考え方で分けており、寄附の梅とそれ以外の梅で場所を分けない。</p> <p>○品種が多すぎるよりは、案2程度の品種の数が楽しめる。</p> <p>○案2はバランスがとれているので良いと思う。</p> <p>○案2は四阿（あずまや）から眺める風景が白梅という形が良いと思う。</p> <p>○かつての小向梅林は「夜でも明るいほどの白梅」と言われるほど白が際立っていたとされる。他の梅林と比較したときに御幸公園の梅林としての特徴あった方が良い。</p> <p>→品種の整備方針は案2で決定。併せてエリア以外には色々な品種を植えるよ</p>

うにする。

(2) 写真展について

事務局から資料2-1、資料2-2の説明を行った。

・「1 撮影場所の範囲」について

- 限定しても、しなくてもあまり変わらないのではないか。
 - 限定しすぎても良くない、範囲が広すぎても良くない。
 - 梅林に対する夢を持てるので、限定しないほうがいい。
 - 区内、市内に限定した方がよい。
 - 三溪園に小向の梅があるように、他都市の梅林が撮影できた方がよい。
- 案1「場所は限定しない」に決定。

・「2 撮影の時期」について

- 最近撮影したものは想いが強いので良いと思う。
 - 古い写真は別で懐古展などで募集したらいい。
- 案2「直近で撮影されたもの」に決定

・「3 賞の有無」について

- 優秀者には賞を付けたほうが良いと思う。子ども会では、子供たちの意欲が湧くように2位まで決めて、他はみんな同等で参加賞を出している。
 - 簡単な賞で優劣をつけるのは子どもだけを対象にした場合はいいが、大人と分けるのは難しい。
 - 今回は賞を付けず、それぞれの撮影した色々な梅を楽しむというのが良い。
 - 応募者全員に参加賞だけでも出したらいいのではないか。
 - 賞を付けるとなるとオリジナルのものかどうかを調べるのが難しい。
 - 毎年やるのか。
→毎年実施する予定。
 - 1回目なので、実施してみて必要があれば来年以降修正すれば良い。
- 案2「賞は付けない」とする。別途応募者には参加賞を用意する。

(3) 平成28年度梅林視察について

事務局から資料3について説明を行った。

- 三か所周れたらいいので、近場の①東京コースがいい。
- 加工が盛んなものも見たいので、②東京・埼玉コースも行ってみたい。

○④偕楽園コースもいい。

○（御幸公園と同じく）多摩川に近い梅林があるので①東京コースがいい。

→平成28年度梅林視察は①東京コースに決定。梅まつりの日程や、移動距離等を精査し次回提案する。

(4) 寄附等について

事務局から資料4-1、資料4-2について説明を行った。

○現物で寄附を受け付ける場合、枯れた時の補償などはどうなるか。

→造園業者から購入したものは枯れ補償が付けられる。

○自宅などの庭に植えてある梅は寄附できるのか。

→別途協議が必要だが、病気の心配があるので、造園業者から購入したものに限定する場合もある。

○予算の兼ね合いもあるが、可能な限り広報は早めに行う。

(5) 御幸公園梅香事業推進計画(案)について

事務局から資料5について説明を行った。

○今回の素案を見て、意見があれば事務局9月末までに連絡して欲しい。いただいた意見をもとに修正を行い、11月の会議の前に案を送るので、次回の会議で案を固めていく。

(6) 今後のスケジュール

第7回御幸公園梅香事業推進会議は平成28年11月16日(水)に開催する。

3 その他

(1) 「御幸地区の歴史・文化」講演会について

事務局から資料6の説明を行った。

○チラシに講師の長島先生の写真を入れることは出来ないのか。

○広報はどのように行うのか。

→町内会の掲示板や、市政だより（幸区版）10月1日号、幸区のホームページへの掲載を予定している。

(2) 「100万本植樹運動」御幸公園植樹祭の開催について

事務局から資料7の説明を行い、委員の出席の依頼をした。

以上